

名古屋地方気象台講座①

名古屋地方気象台と名古屋大学減災館の見学

開催日時：令和2年1月15日（水）	10：30～14：30
集合時間：名古屋市営地下鉄 東山線 「本山駅」	10：00
見学時間：名古屋地方気象台	10：30～11：30
（名大食で昼食	12：10～13：00）
名古屋大学「減災館」	13：00～14：30
参加者：寺島、森、瀧本、小塚、土本、高木、西村、阿部(8人)	

今回のスキルアップ研修「名古屋地方気象台見学」実施日の前日に名古屋地方気象台より暖冬の影響で1953年に観測を始めて以来、6番目に早い梅の開花宣言が出され、見学した当日も日差しは温かく小春日和の様な、のどかな気分を味わうことができました。

地下鉄本山駅から途中、急な登り坂を歩きながら、名古屋地方気象台に到着した愛知県防災士会一行は、気象台の春原（すのはら）次長様のお出迎えを頂いた後、松村気象台長様へ挨拶をすることが出来ました。

そのあと、別室に案内され名古屋地方気象台に関わる概要をパワーポイントにより春原次長様から説明をお聞きする機会を頂きました。

やはり、第1にスーパーコンピューターの性能向上を上げ、次に気象観測データ、気象レーダー、解像度が格段に上がった気象衛星などをもとに計算された予想結果を東海地方の特性などから予報官が修正して天気予報や気象情報に反映しているとのことでした。また、最近の天気予報の的中率（雨の有無）は全国平均で83%（東海地方は85%）とのことでした。今回は、普段は見られない午前11時の天気予報の



高台に建つ名古屋地方気象台



説明をされる気象台の春原次長様

発表の模様を現業室の外から見る事ができました。また、名古屋地方気象台は、ビルや遮蔽物から影響を受けにくい好条件に立地していることから、名古屋市内を一望できるパノラマ光景を見ることが出来ました。屋上では日照計や日射計を見学しました。その次に案内されたのは、敷地内の露場と呼ばれる場所で、温度計、湿度計、雨量計、積雪計などの気象観測器の説明のほか生物季節観測を代表するソメイヨシノの桜の標本木を見ることが出来ました。



屋外で説明を受ける防災士

昨年の台風、特に19号の猛威に触れ、伊勢湾台風から60年目の節目を迎えた東海地方へ、当時と似たような被害がもたらされるのではとの危機感から動静を見守ったところ、東側へ進路がずれたため大きな被害から免れたことも併せて説明を聞きました。被災状況を教訓として、今後も防災気象情報を活用して、災害から自分の身の安全を守ることが強く求められることから、気象情報の入手方法を個々に確認して、警戒レベルに相当する情報を早めの避難行動の判断に役立てることが重要との認識を更に深める事ができました。



デモ計測器の説明を受ける防災士

過去の教訓に学びながら、ハザードマップ等や過去に災害が発生したことが無い前例に固執することなく、危険を察知し、生命を守るための早めの行動を取ることは、取越し苦労であったとしても、それはそれで結果は良となることを知らされました。もう一度、我を問い、現状を素直に受け入れることの大切さ、そして、一難去って一難。安心しきることのタブーにつきましても、今回の名古屋地方気象台の見学を通して学ぶことが出来たと共に、ここで学んだことを広くお知らせ活動に取り入れていきたいと感じました。

最後に名古屋地方気象台長様の名刺に書かれていました「守ります人と自然とこの地球」をご披露して、名古屋地方気象台の感想文を終わらせて頂きます。

名古屋大学減災館では、阪神大震災から25年を迎えるイベントへ参加し、伊勢湾台風により浸水した地域が判る空撮を興味深く見させて頂きました。

文責・写真：阿部 健二